

郵政創業 150 年を記念した切手の寄贈



日本郵便北海道支社より郵便創業 150 周年を記念したオリジナルフレーム切手と、社史「すべてを、お客さまのために。—郵政百五十年のあゆみ—」を寄贈いただきました。

この取り組みは道内の全市町村に切手と社史の寄贈が行われ、妹背牛町では、妹背牛郵便局の高橋篤史局長が来庁し「地域の皆さんに普段からお世話になっているので感謝の気持ちも込めて」と田中町長へ手渡されました。



モー突進レポート

翔 SHOW TIME たいむ

vol.24



今回の翔たいむでは、「ペン習字若菜会」の活動に参加させていただきました。

今回は、僕が体験させていただいたのは、ボールペン習字。普段書

現在8名の会員で月に2回集まり「付けペン」「毛筆細字」「ボールペン習字」などの中から好きなものを選んで毎月、日本書道評論社が発行しているお手本でそれぞれ練習に励んでいます。

ましては、昨年、これまで多くの塾生や会員に惜しまれながら亡くなられましたが、安村先生（美唄市）が後を継ぎ、妹背牛神社の一室で活動を続けています。

松田先生におかれ

田香洋（洋子）先生の指導のもと活動を行い、昭和55年頃には会員数が32名と大幅に増えました。

「ペン習字若菜会」の始まりは、昭和50年に公民館で当時入志別小学校教頭の腰山先生がペン習字講座を開催したことをきっかけに10数名でサークル「若菜会」を結成。



人に見られながら書く緊張します

「ペン習字若菜会」 6/12 妹背牛神社

これが理想形だそうです。パソコンやスマートフォンでのやり取りが主流となってきた昨今ですが、たまには手書きで手紙などを書いてみてはいかがでしょうか。より真心が伝わると思います。

付けペンは、ペン先にインクを付けて文字を書きますが、少しの力加減で太さが変わったり、かすれてしまったりします。書いた文字の太さが均一、これが理想形だそうです。



先生のお手本を見ながら書く練習

田幸子さんに「せっかくだから付けペンもやってみる？」と誘っていただきました。

していた小

く文字を少しでもきれいにしたいと思いい選択しました。まず、最初は自分の名前を普段書く感覚で書いてみました。続いて、ゆっくりと字の大きさなどのバランスを取りながら書きます。安村先生によると横に書くときは、少し横長なイメージで、縦に書くときは縦長なイメージで書くとバランスよく見えるそうです。他にも平仮名やカタカナなどを書く練習を行っている、僕の後ろで付けペンの練習を